君津市地域おこし協力隊活動報告

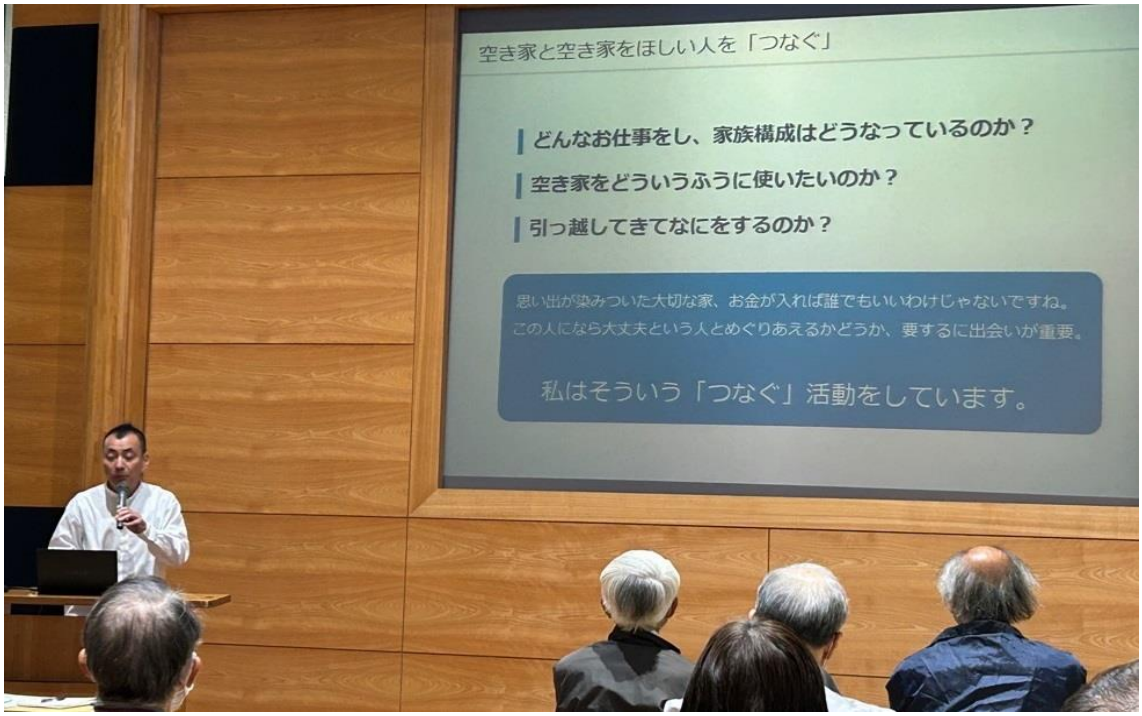
隊員名：深山 雅弘
指名日：令和４年１１月１０日

活動月	令和５年 12 月
主な活動内容	**1.「第３回 空き家活用セミナー」を開催しました** **2. 市民グループポータルサイトを開設しました** **3.「ウェルカムハウス」修繕作業、順調に進んでいます**

1.「第３回 空き家活用セミナー」を開催しました

2023 年 12 月 3 日（日）「第 3 回 君津市空き家セミナー」を開催しました。今回は相談会形式ではなくホール型のセミナーです。講師として、遺品整理・生前整理を終活のひとつとして社会に広く認知する活動や、行政との協力に積極的な取り組みをされている株式会社ワンズライフの上野貴子さまをお迎えし、『空き家じまい～誰も住んでいない実家の片付け方』というテーマでご講演いただきました。

私からは、なかなか動きださない田舎の空き家の特徴と、コミュニティ清和が手掛けている空き家活用のご紹介を。



核家族化が進んだ日本では、子世代が実家をでて独立し自分の家を持つケースが多いです。親が老人ホームなどの高齢者施設に入ったり、子どもの家で同居するようになれば、実家にいたのは親だけなので、その家は空き家になってしまいます。

親が亡くなった後、誰も住む予定はないので実家を処分しようとするが、両親の思いがつまった実家を処分することの後ろめたさや、残されたままのたくさんの日用品や生活雑貨、家具や家電を処分する面倒さで、ずっと空き家のまま。

上野さまのお話しで、実家じまいをどうするかは親が元気なうちに親子で話し合って考えておくのがいいと学びました。自分が亡くなった後、実家がどうあってほしいかを親子で話し合い、子どもは親の考えを受け止める。子どもから「一緒にやろう」と言葉をかけて、親の人生を聴き気持ちを近づけていく。親世代の価値観を受け入れ信頼関係をつくる。そうすれば安心して片付けられる。

実家じまいは法事や神事を節目にする人が多いそうですので、お盆などで家族が集まった時に「ところでお父さん（お母さん）、この家のことなんだけど…」と話を持ちかけてみるといいのではないでしょうか。

地域おこし
君津市
協力隊

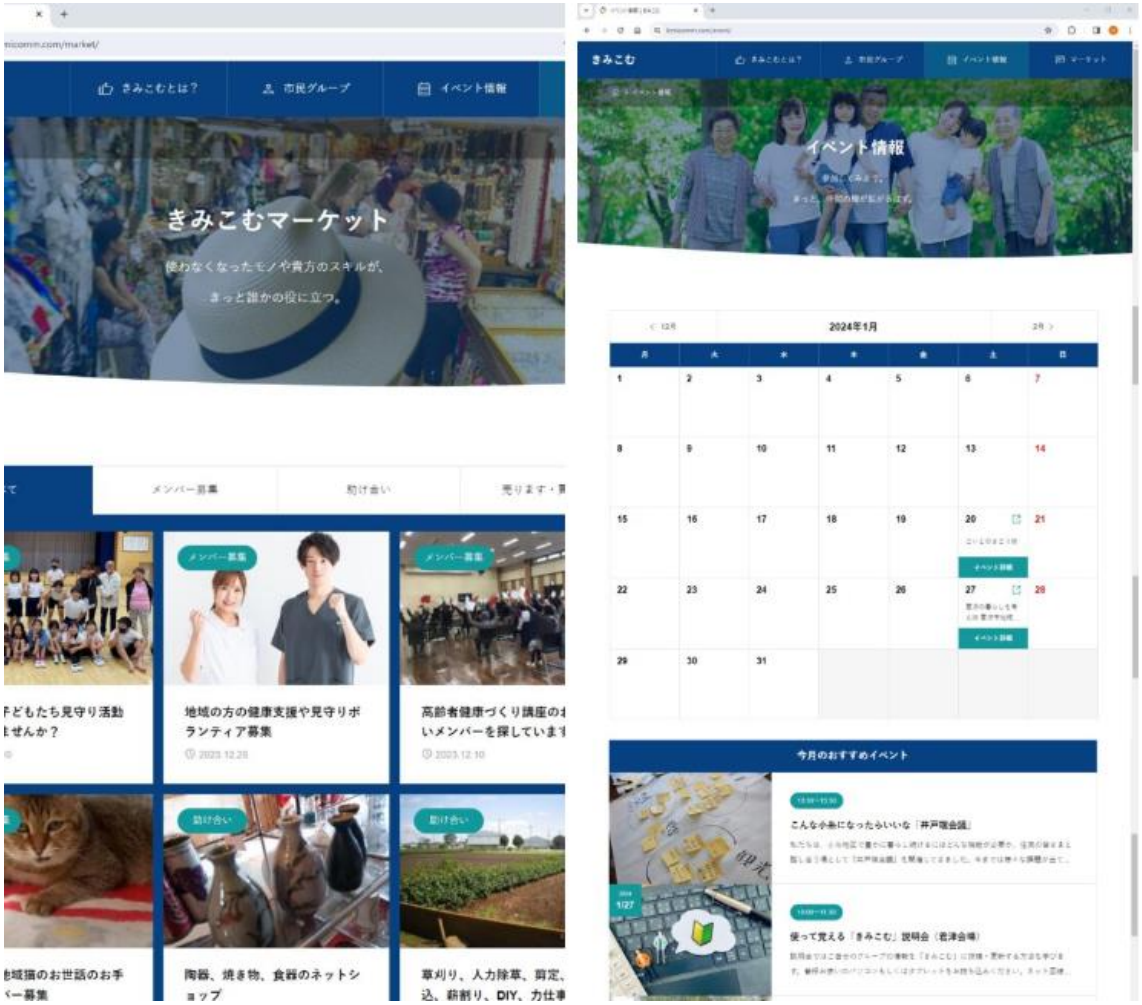
次回の空き家活用セミナーは、旧秋元小学校を公民館＆こども園＆ワーキングスペースの複合施設として利活用した『おらがわ』で 2 月 17 日に行います。清和のランドマークとしてリニューアルオープンしたばかりの複合施設でのセミナー。今から楽しみです。

株式会社ワンズライフ
https://ihinseiri-oneslife.com/

2. 市民グループポータルサイトを開設しました

君津市では様々な市民団体が活動し、SNS 等で情報発信をしています。しかし SNS の特性上、その情報は仲間内でつながっている相手にしか届かず、残念ながら不特定多数の人々の眼にふれることはありません。ホームページを開設できればいいのですが、そのようなスキルを持つメンバーがいないため、チラシなどのアナログ手法で我慢している団体も多いと見受けられます。

様々な団体が共有で使える WEB 情報発信のプラットフォームがあえば、そこで賑わいと交流が生まれます。その賑わいは市民活動に参加していない人の眼にもふれ、興味と行動を促すマグネットになるのではないかと考え、コミュニティ団体支援の一環として市民団体自らが情報発信できるポータルサイト「きみこむ」を立ち上げました。年明け以降、市民グループに対してホームページの更新や利活用方法の講習会を実施していく予定です。



君津で活動する市民グループポータルサイト「きみこむ」
https://kimicomm.com/

3.「ウェルカムハウス」修繕作業、順調に進んでいます

鹿野山の山頂に位置する空き家となった商店をコミュニティ清和が借り受け、地域内外の交流拠点として蘇らせるプロジェクト『清和ウェルカムハウス』は、年明けのオープンにむけて修繕作業が佳境にはいっています。

雨漏りで穴が開いていた天井をふさぎ、長年の雨風にさらされボロボロになっていた外装を修繕。そして天井や床、家具までも再塗装を行いました。本交流拠点を通じて「今、清和でしかできない」暮らしに近いアクティビティやワークショップを体験してもらうことで、移住促進、関係人口創出、および空き家の利活用を推進させていきます。

地域おこし
君津市
協力隊

地域おこし
君津市
協力隊